

件名	令和４年度 第３回 福井市障がい者自立支援協議会居宅生活支援部会報告書	会場	福井市ボランティア センター
日時	令和４年 12 月 12 日（月） 14:00～		※オンライン併用
出席者 （傍聴者）	別紙参照 （傍聴者：1 人）		
欠席者	福井市手をつなぐ育成会 福井市身体障害者福祉連合会 福井市社会福祉協議会 地域福祉課 福井県医療ソーシャルワーカー協会		
進行内容	1. 報告事項 （1）強度行動障害児者の支援について （2）「障がい児者の余暇活動」改訂について 2. 協議事項 （1）来年度の居宅生活支援部会について		
意見・感想等	1. ・進行 報告事項 （1）強度行動障害児者の支援について ・資料１－１，資料１－２参照。 ○一か月半後に。事業所に対する経過確認。➡事業所内での加害や暴言消失。活動参加の機会増。事業所・家族間の報連相が機能しているという効果。 ○アンケート結果概要 ※参加者の半分以上が相談員。入所系事業所職員の参加なし（感染症リスク回避のため）。 ※開催日時については、特に課題無し。 ※八割以上から「期待通り」「期待以上」の回答を得た。継続的開催の要望も得た。 ・様子を見に行くと、穏やかに過ごしている。自傷他害の報告もない。事業所外から意見を聞いたことで、いろんな参考になることがあって事例提供できて良かったと感じている。 ・１年・２年やったところで、何も変わらない。形や中身を変えながら継続していくことが大事と考える。 ・集合形式は中身が多くて活発で良かった。継続して実施していくことが大事。 ・入所系サービスの参加がなかったということで、連携して実施できることを考えると良い。 （2）「障がい児者の余暇活動」改訂について ・資料２について説明。 ・継続掲載１５、新規９団体の掲載予定。		

<p>質問・意見等</p> <p>2. 説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子掲載の調査終了。今後の調査としては、部会員全員に、できることの協力をお願いしていたが、全体で取り組む量もないことから個別で依頼するかもしれない。その際には個別に連絡する。最終的な結果については、次回報告する。 ・特になし。 <p>協議事項</p> <p>(1) 来年度の居宅生活支援部会について</p> <p>①令和5年度～の専門部会構成メンバーについて（資料3参照）</p> <p>※更新に関し、構成メンバーに関する意見を聞きたい。</p>
<p>協議内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議で、当事者の参加について意見が挙がっている。当事者参加は居宅生活支援部会のみ。但し、当事者といっても家族の団体が2つ。当事者参加は6障がいのうち1障がいの状況。当事者の方に、例えば強度行動障がいについて話をしても難しいところがあり、当事者部会発足についても意見がある。当事者を支える支援者についても、意見は様々。 ・次年度の取り組み内容から構成メンバーを考えた方が良いのではないか。例えば次年度に福祉人材の話をするのであれば、それに即した方を入れた方が良いと思う。 ・一般就労している方で、福祉サービスを利用しない方へのアプローチについて以前話が出ていたように思う。雇用関係の機関が入っても良いと思う。 <p>→就労部会があり、そこで協議できるが、ハローワークが入っているかどうかは・・・？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校にも強度行動障害のある方がいると思われる。教育関係の機関で悩みがあれば参加してもらえれば良いと考える。 <p>→こども部会でワーキングチームを作って取り組んでいる。</p> <p>磯崎氏の意見を尊重し、まず次のテーマについて協議していきたい。</p>
<p>説明</p> <p>協議内容</p>	<p>②次年度の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組み内容報告（資料3－2参照） ・福祉人材の育成・確保についての来年度以降課題としては、イベント開催を中心とした企画を中心として、次回部会で話していけたらと考える。 ・地域のつながりによる障がい児者の支援については、避難支援プラン周知・児童委員委託への研修の活用を通して広げていく。 ・居宅生活支援に関する内容にした方が良い。避難支援プランは市が取り組んでいることから部会で取り組む内容とは違うかと考える。 ・障がい種別によって課題が違うがゆえに、生活課題も違うので、まず吸い上げることが必要。課題や構成メンバーについては悩ましいところ。 ・強度行動障害の支援は難しく、継続は大切。避難支援プランは福井市が進めているので、別にここで取り上げなくてもいいかなと思う。 <p>→避難支援プランが広まっていけない。地域が支えないと支援は出来ない。作成しただけで地域の共助に繋がっていけるのか。「地域に障がい者がいることが知られていない」・「知られたくない」状況下、民生委員に、地域にいろんな障がい者が暮らしていることを</p>

知ってもらうための取り組みもあっていいかなと考える。

- ・重度の障がいがある方で自宅で生活している方はどの程度いるのか。軽度の方で地域生活している方を見守っていくというイメージはつきやすいし、周知としては手っ取り早い。本当に避難しないといけないときは民生委員も何もできない。日頃から軽度の方の存在を地域で知ってもらえれば、災害時でも支援に入ってもらえる可能性がある。
- ・災害時は、民生委員も被災者。精神障がいがある方は避難支援プラン作成による共助といったシステムには乗っかってこない。「地域に障がい者がいることが知られていない」のは地域に知られたくない方が多いからと想定する。避難支援プランに着目することは部会としては方向性が違うと考える。障がいの PR をするなどポイントを絞った方が良いと考える。
- ・「重度より軽度に絞る」意見に関して、重度の方には長時間サービスが連携し、地域で生活している人は多い。が、そういった人たちの存在はまだ知られていない。サービス提供に当たって、当事者の近くで生活している方にも知られていないという実感がある。この部会は当事者のいきづらさ等について考えるところだと思う。重度や軽度といったことを見ただ目で見極めるということは難しいと考える。
→強度行動障害に関しては、どこにも繋がっていない人たちをサービスに繋げようといった形で進めている。サービスに繋がっている人たちをサービスで支援している人たちだけでなく、「地域のなかに理解者が増えることで、当事者の方も住みやすくなる」といった視点で、部会として何ができるか、だが、何をしていくか。
- ・検討の幅が広い。居宅生活を継続するにあたって、当事者及び家族が何に困っているかが明らかになると、解決の糸口になると感じた。
- ・精神障がい者に関しては、自宅でひきこもり状態になり、医療にも繋がっていない方、医療に繋がっているが就労の場・デイケア・地活等と繋がっていない方がいる。災害時等緊急時にどのような状態になるかは想像がつかない。家族も高齢になってきている。親亡き後や親の体調や身体状況の悪化による当事者の生活を心配していると想定する。
- ・人材育成の視点で考えると、利用者のニーズが多様化しているので、支援者のフォローも必要。支援者がいないと当事者を支援できない。サービスで横の繋がり（共有の場）があると良いのではないか。
- ・当事者が何に困っているのか原点に振り返ること。児童虐待の報道がなされているのが、人材不足も要因として挙がっているため、ここに焦点を当てた、人材確保のための活動（PR等の周知活動）も良いのではないか。

→運営会議で、自分たちの悩みはどこで出せばいいのか・生活介護の連絡会はないのかといった話が出ていた。横のつながりがあるかと思った。在宅生活を維持するための困りごとについてアンケートを取ることについてどう思うか。

※会員の関わっているところでの当事者や当事者家族・民生委員の困り感

※地域で生活するための課題

→サービスに繋がっている人・繋がっていない人から聞くのは1年がかりになる…。

- ・次年度をアンケートを取り、その翌年度で課題を掘り起こす年にするのはどうか。強度行

	<p>動障害支援者学習・交流会でのアンケート結果にも挙がっているが、福井市内の（在宅）障がい者がどれくらいいるか知りたい。データを分析した上で課題を掘り起こし、解決に向けていくのはどうか。</p>
協議結果	<p>協議事項1 <u>強度行動障害児者の支援</u> についての決定事項</p> <p>【今年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月28日に集合（足羽福祉会研修所）でWG開催予定。 ・記録を参加者に展開する。 <p>協議事項2 <u>「障がい児者の余暇活動」改訂</u> についての決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局で作成していくが、個別で部会員に協力を依頼するかもしれない。 <p>協議事項3 <u>来年度の居宅生活支援部会について</u> についての決定事項</p> <p>①令和5年度～の専門部会構成メンバーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題確定ないままの決定は難しい。 <p>②次年度の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に障がい当事者、家族へアンケートをとるための段取りする。 ・必要なら次年度は、WGに分けて当事者に参加してもらう。
次回	<p>時間：未定</p> <p>場所：未定</p>